

## 平成27年度 英語力調査結果（高校3年生）の速報（概要）

## 1 調査の目的

- 高校3年生を対象に、英語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から、生徒の英語力を測定し、調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

〈参考〉

「第2期教育振興基本計画」（平成25～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、民間の資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。また、成果指標として、中学3年生、高校3年生の英語力の目標を設定。

\* 「第2期教育振興基本計画」（平成25年～29年度）における成果指標

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標

（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

## 2 調査の内容・対象

- 全国の高校3年生約9万人（国公立約500校）の英語力を調査
  - ・学習指導要領に基づき、全員を対象に3技能（聞くこと、読むこと、書くこと）試験を実施。
  - ・「話すこと」は約2.2万人を調査（1校あたり1クラスを対象）。
- 生徒の英語学習状況や英語担当教員の指導状況を把握・分析(質問紙調査)
  - ・受験した生徒：英語学習に関する関心・意欲や授業内外における学習状況 など
  - ・調査実施対象校の英語担当教員：授業における指導や評価の状況 など
- 学校の取組事例
  - ・調査結果において特徴が見られた学校における取組内容の調査
- 調査実施時期：平成27年6月末～7月  
※平成27年11月に生徒個人票返却、平成28年3月末を目途に結果をとりまとめ、公表

## 3 調査の特徴

- 国による全国無作為抽出で行う大規模な4技能型試験のフィージビリティ調査。
- 昨年度（平成26年度）と今年度の調査結果を経年比較
- 世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1からB2までのレベルを測定できるように設計。（別紙参照）

## 4 テスト結果と質問紙の分析（要約）

※以下の結果・分析は全て公立学校のデータを対象としている。

### 1. 総論（平成26・27年度の経年比較）

改善が見られるものの依然として「書く」「話す」に課題がある

- ・全ての技能において、依然として課題がある。CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）**A1レベルの人数が減少（「読むこと」75.3%→68.0%）**するとともに**A2レベル以上が増加（「読むこと」24.7%→32.0%）**し、昨年度に比べて英語力の向上がみられる。
- ・「書くこと」の得点者は全体の約80%（**無解答の割合が減：30.4%→18.1%**）と10%以上増加し、改善がみられる。「話すこと」では平均点は上昇したが、依然として課題が大きい。

### 2. 英語学習に対する生徒の意識

学習意欲に課題

P.6,7参照

#### ○「英語の学習は好きですか。」

- ・「英語の学習が好きだ」と回答した生徒は**44.5%（対前年比2.9ポイント増加）**。
- ・昨年度より改善したが、「**英語の学習が好きではない**」と回答した生徒は依然として半数を超えている。
- ・「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、また、「読むこと」の**テストスコアが高いほど**、「英語の学習が好きだ」と回答した**生徒の割合が高い**。

#### ○「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。」

- ・「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」という回答が、**昨年度より増加（①：2.3ポイント増加、②：1.4ポイント増加）**。
- ・昨年度と同様、**テストスコアが高いほど**、「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」といった**将来の英語使用のイメージが明確な生徒の割合が高い**。

#### 〈2. の改善の方向性〉

- ⇒ 生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲・態度の育成を含めた**具体的な教育目標（指標形式の目標を含む）を設定し**、生徒の学ぶ意欲の向上を図るようにする。  
併せて、**主体的・協働的な学びにつながる学習・指導方法（アクティブ・ラーニングの視点を含む）、及び評価方法の在り方を検討・改善**。

### 3. 生徒の4技能の言語活動に対する意識

特に、話したり書いたりする言語活動が十分でない

#### ◆話すこと◆

P.8,9,10,14,15参照

#### ○「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。」

- ・英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた生徒は**30.7%と少ないが、改善はみられる（7.8ポイント増加）**。
- ・「話すこと」、「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、スピーチやプレゼンテーションを経験した**生徒の割合が高い**。

#### ○「英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。」

- ・英語でディベートやディスカッションをしていた生徒は**23.6%と少ないが、改善はみられる（6.3ポイント増加）**。
- ・「話すこと」、「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、ディベートやディスカッションを経験した**生徒の割合が高い**。

#### ○「与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていたと思いますか。」（平成27年度新設項目）

- ・与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていた生徒は**30.4%と少ないが、改善はみられる**。
- ・「話すこと」、「読むこと」の**テストスコアが高いほど**、即興で話す活動を経験した**生徒の割合が高い**。

### ◆ 聞くこと・読むこと ◆

- 「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。」
  - ・ 英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた生徒は**57.6%と半数を上回る**。
  - ・ 「聞くこと」・「読むこと」とともに、**A2レベル以上では、60%を超える**。

### ◆ 聞くこと ◆

- 「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたと思いますか。」
  - ・ 英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は**59.5%（1.3ポイント増加）**。
  - ・ 「聞くこと」の**テストスコアが高いほど、「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い**。

### ◆ 読むこと ◆

- 「英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたと思いますか。」
  - ・ 英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は**67.6%**（前年度同様）。
  - ・ 「読むこと」の**テストスコアが高いほど、「英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い**。
- 「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていましたと思いますか。」
  - ・ 速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた生徒（選択肢①②合計）は**54.7%と半数を上回る。特にB1レベル以上では、70%を超える**。

### ◆ 技能統合型の活動 ◆

- 「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。」
  - ・ 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた生徒は**41.8%（6.6ポイント増加）**。
  - ・ 「読むこと」の**テストスコアが高いほど、「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い**。
- 「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。」
  - ・ 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた生徒（選択肢①②合計）は**42.5%（3.8ポイント増加）**。
  - ・ 「書くこと」の**テストスコアが高いほど、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い**。

### 〈3. の改善の方向性〉

- ⇒ 基礎的な知識・技術を活用し、生徒の興味・関心が高い話題や、時事問題や社会的な話題など幅広い話題について「発表、討論・議論、交渉」などの言語活動を豊富に体験させ、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする総合的なコミュニケーション能力を高める必要がある。
- ⇒ あわせて「聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする」など複数の技能を統合した言語活動を通して、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導方法（アクティブ・ラーニングの視点を含む）や評価を行うことが必要。

#### 4. 教員の授業における言語活動の指導に対する意識

改善は見られるが、依然として技能統合型の言語活動の指導が十分でない

P.16,17参照

- 「スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。」
- 「ディベートやディスカッションを行っていますか。」
  - ・スピーチやプレゼンテーションを行っている教員は**34.8% (6.8ポイント増加)**。
  - ・ディベートやディスカッションを行っている教員は平成26年度より**3.7ポイント増加**したものの、依然として**10.6%と非常に少ない**。
- 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。」
- 「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。」
  - ・聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換の活動を行っている教員は**39.7%**、書く活動を行っている教員は**46.7%**。
  - いずれの活動も平成26年度より増加（意見交換：**6.7ポイント増加**、書く活動：**7ポイント増加**）している。

#### 〈4. の改善の方向性〉

- ⇒ 教員養成・研修において、2. 3の改善の方向性に沿った実践的な内容の改善が必要。
  - ペア・ワーク、グループ・ワークなどを含めた学習・指導方法、時事問題や社会的な話題などについて「発表、討論・議論、交渉」などを行う模擬授業、「話す」「書く」の能力を適切に測るパフォーマンステスト等の改善を図ることが必要。

# 生徒全体の英語力の傾向

- 依然として4技能全てにおいて課題がある。前年度同様に、特に「話すこと」「書くこと」について課題が大きい。
- 一方で、4技能いずれにおいても、CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) A1レベルの人数の割合が減少し、A2レベル以上が増加するなど改善がみられる。(A2以上の増加率：読むこと：7.3ポイント、聞くこと：4.9ポイント、書くこと：6.9ポイント、話すこと：0.5ポイント)
- また「書くこと」の無回答の割合が減り(約30%→18%)、得点者は10%以上増加(約70%→80%)

## 【生徒全体のスコア分布(公立)】

<読むこと> 43問 (約45分)

<聞くこと> 36問 (約23分)

Reading		平成26年度		平成27年度		Listening		平成26年度		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	320	14	0.0%	30	0.1%	B2	320	55	0.1%	123	0.2%
	310	3		14			56				
	300	7		35			62				
B1	290	11	1.2%	41	2.0%	B1	290	29	1.2%	77	2.1%
	280	34		51			90				
	270	36		73			176				
	260	47		122			172				
	250	82		175			238				
	240	108		250			342				
	230	188		347			414				
	220	272		503			607				
A2	210	404	23.5%	730	29.9%	A2	210	444	20.3%	751	24.2%
	200	556		1007			1046				
	190	854		1365			1377				
	180	1204		1957			1770				
	170	1707		2580			2241				
	160	2367		3648			2835				
	150	3324		5063			3683				
A1	140	5031	75.3%	7144	68.0%	A1	140	3857	78.4%	4700	73.6%
	130	7989		9663			6111				
	120	11631		12791			728				
	110	12368		12821			9265				
	100	9740		9486			9324				
	90	4663		4891			8611				
	80	1813		2038			6794				
	70	598		696			4289				
	60	206		240			2594				
	50	75		105			1299				
	40	50		35			642				
	30	18		35			331				
	20	1		1			144				
	10	0		0			147				
0	282	332	529								
平均		126.7		131.9	平均		117.1		120.7		
調査対象		65,711		78,569	調査対象		65,711		78,569		

<書くこと> 2問 (約27分)

<話すこと> 3問 (対面約10分)

Writing		平成26年度		平成27年度		Speaking		平成26年度		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	140	0	0.0%	0	0.0%	B1	14	166	1.0%	211	1.2%
	135	0		1			239				
	130	0		0			390				
B1	125	2	0.3%	2	0.7%	A2	13	193	9.5%	422	9.8%
	120	6		18			611				
	115	10		46			748				
	110	59		179			905				
A2	105	101	10.7%	288	17.2%	A1	9	621	89.5%	1026	89.0%
	100	306		679			1168				
	95	420		726			1569				
	90	829		1,370			1,028				
	85	737		1,577			1,601				
	80	1,485		2,130			0				
	75	1,525		3,515			3,918				
	70	1,752		3,563			3,149				
	65	1,668		4,518							
	60	2,169		3,709							
A1	55	1,876	89.1%	4,130	82.1%	A1	8	718	89.5%	905	89.0%
	50	2,400		3,651			1,026				
	45	2,039		2,435			1,168				
	40	2,346		3,208			1,569				
	35	1,940		2,234			1,028				
	30	2,441		2,668			1,601				
	25	2,045		2,861			0				
	20	2,226		3,551			3,918				
	15	2,151		4,621			3,149				
	10	2,529		12,844							
	5	2,889		0							
0	29,973	14,303									
平均		24.9		37.5	平均		4.2		4.3		
調査対象		65,904		78,827	調査対象		15,832		16,985		
0点		20,059	30.4%	14,303	18.1%	0点		2,210	14.0%	3,149	18.5%

※平成27年度のスコアは、平成26年度と共通の尺度にするため「等化」を行っている。(等化とは、同一の仕様に基づいて開発される問題項目の内容が異なる複数のテスト間で、どのテストを受験しても結果が同じ尺度上の得点で表現され、異なるテストの受験者間で得点を比較することを可能にする統計処理を指す)

なお、「書くこと」「話すこと」において、人数が表れていない得点帯があるが、これらは等化の結果、得点が小数点以下を含んだ状態で算出され、度数分布を作成した際に出現しない得点帯があるためである。

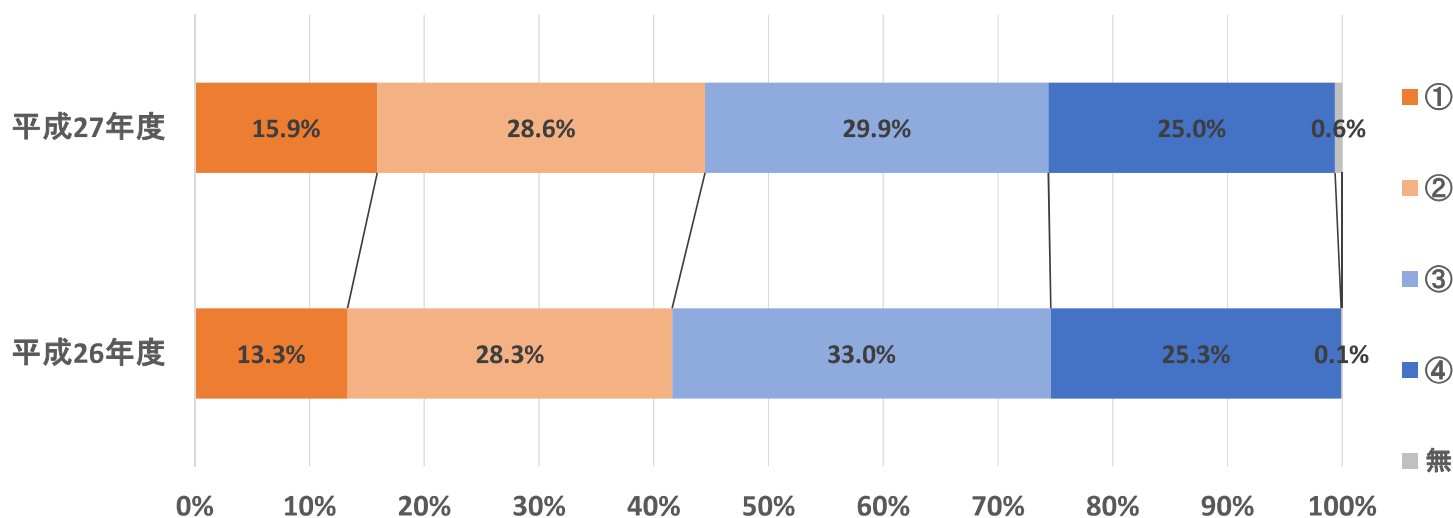
# 1. 英語学習に対する生徒の意識 ①

## 生徒の英語学習に対する意識

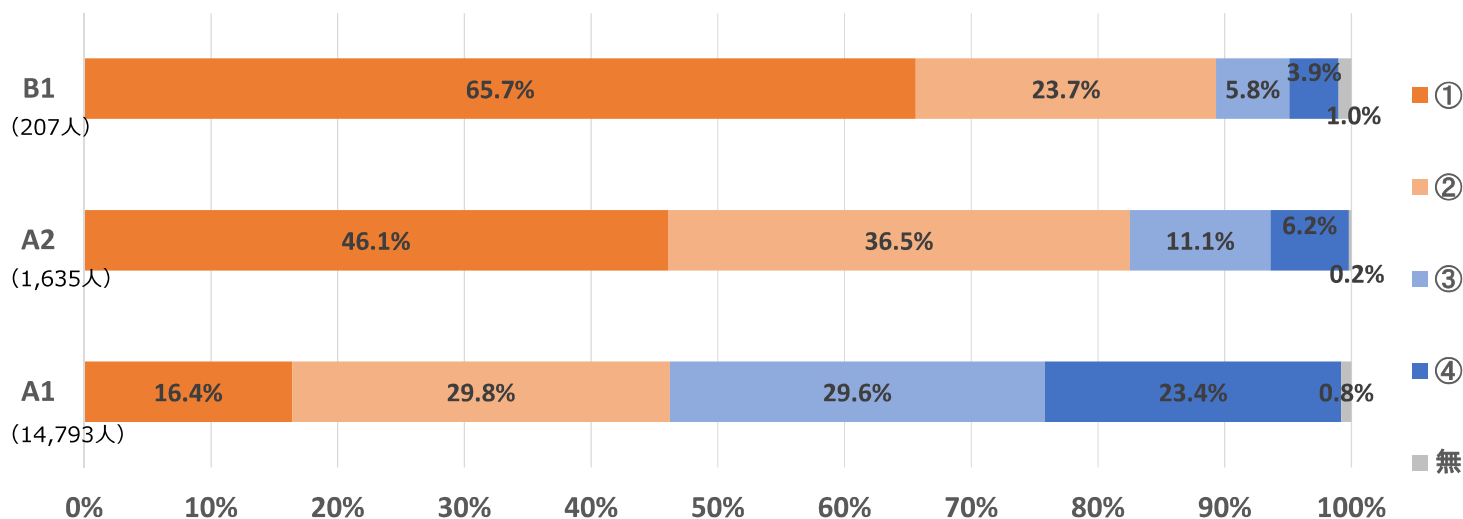
- 「英語の学習が好きだ」（選択肢①②合計）と回答した生徒は44.5%。平成26年度より2.9ポイント増加したものの、「英語の学習が好きではない」（選択肢③④合計）と回答した生徒が半数を超えている。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語の学習が好きだ」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



## ■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



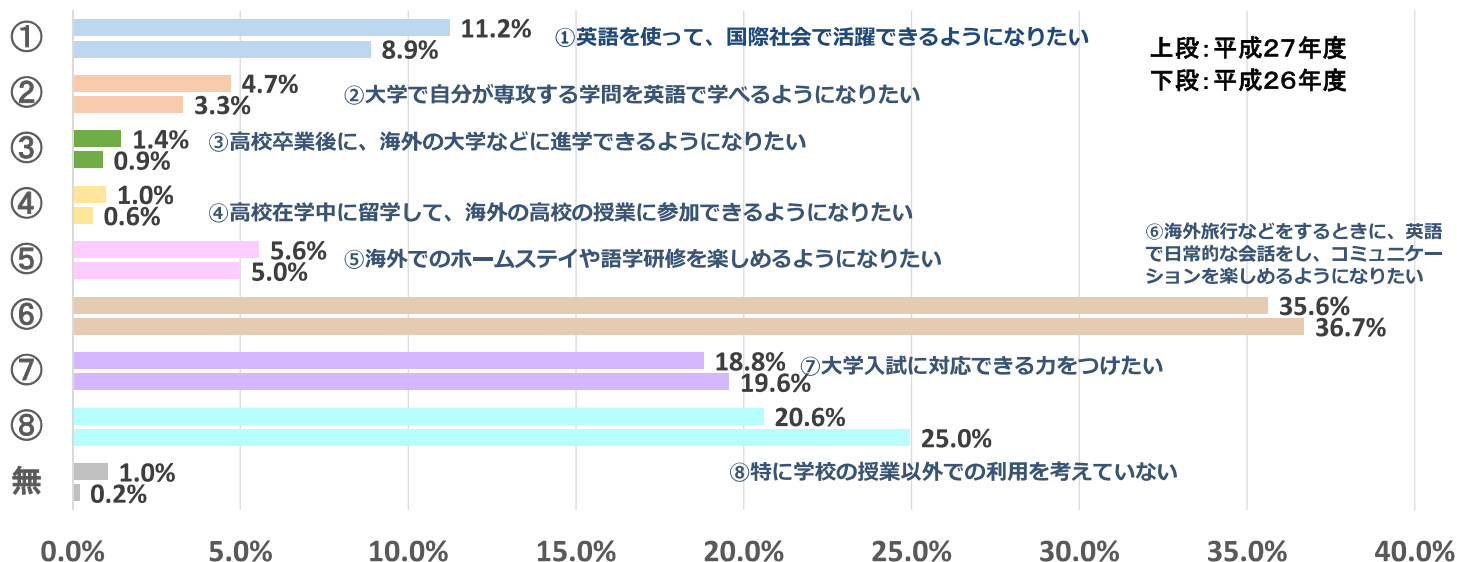
# 1. 英語学習に対する生徒の意識 ②

## 現在の英語力と将来の英語使用のイメージ

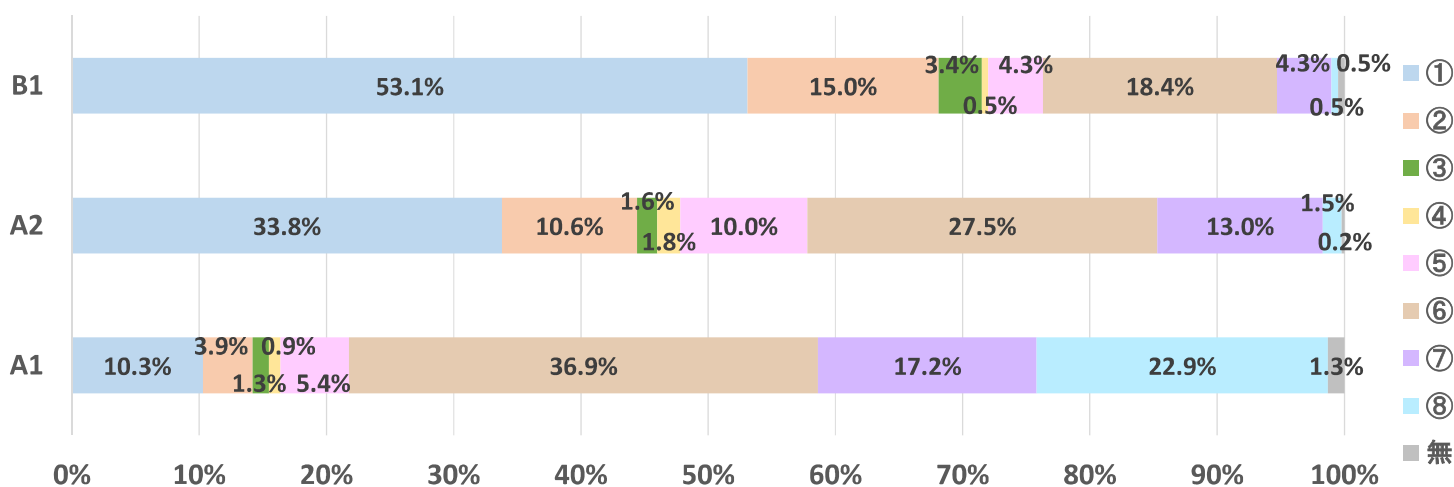
- 「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」という回答が、平成26年度より増加（①：2.3ポイント増加、②：1.4ポイント増加）した。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「①国際社会で活躍できるようになりたい」と回答した生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい
- ②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
- ③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
- ④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
- ⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
- ⑥海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
- ⑦大学入試に対応できる力をつけたい
- ⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない



## ■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



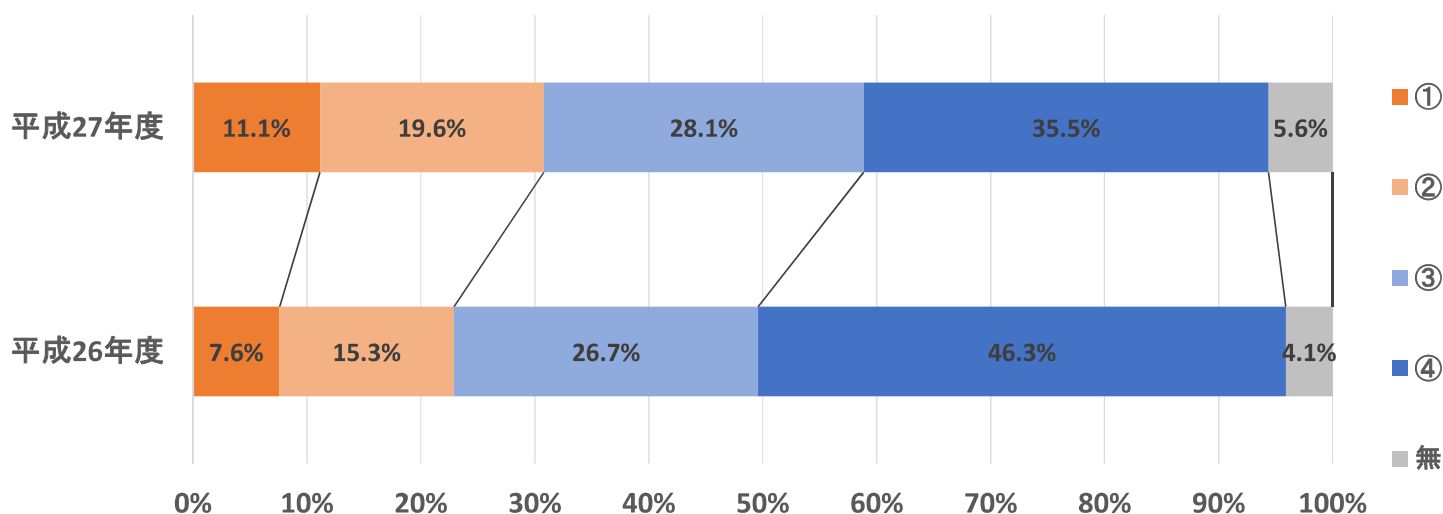
## 2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ①

### 生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」

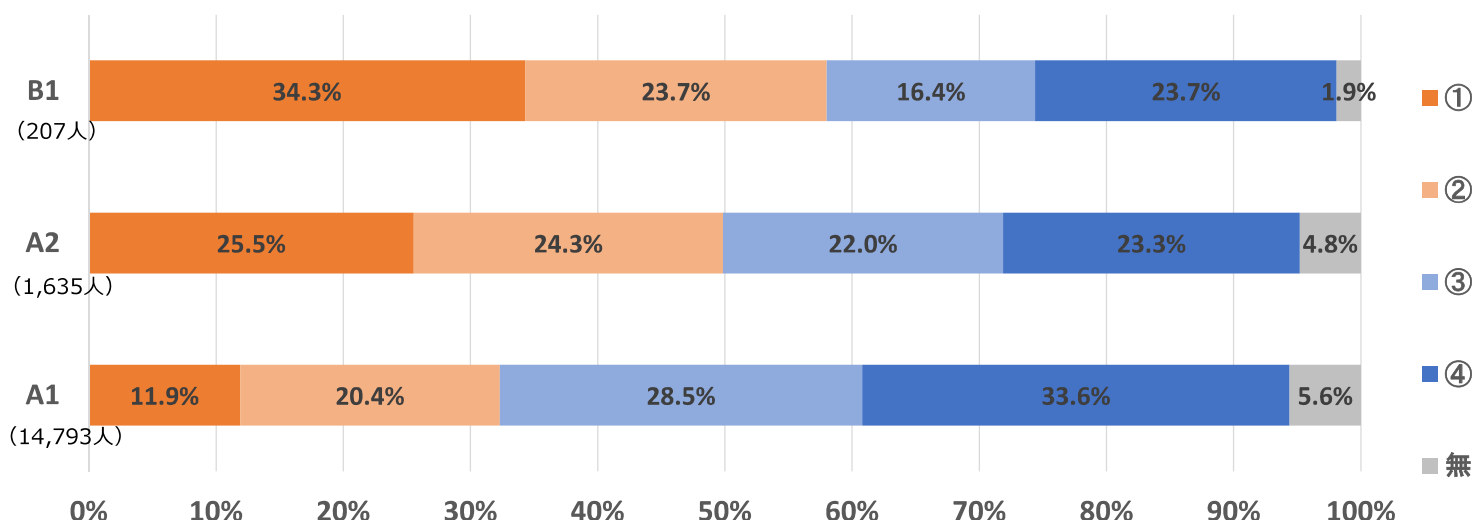
- 英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと回答した生徒（選択肢①②合計）は30.7%で、平成26年度より7.8ポイント増加し、改善が見られる。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「書くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



### ■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス





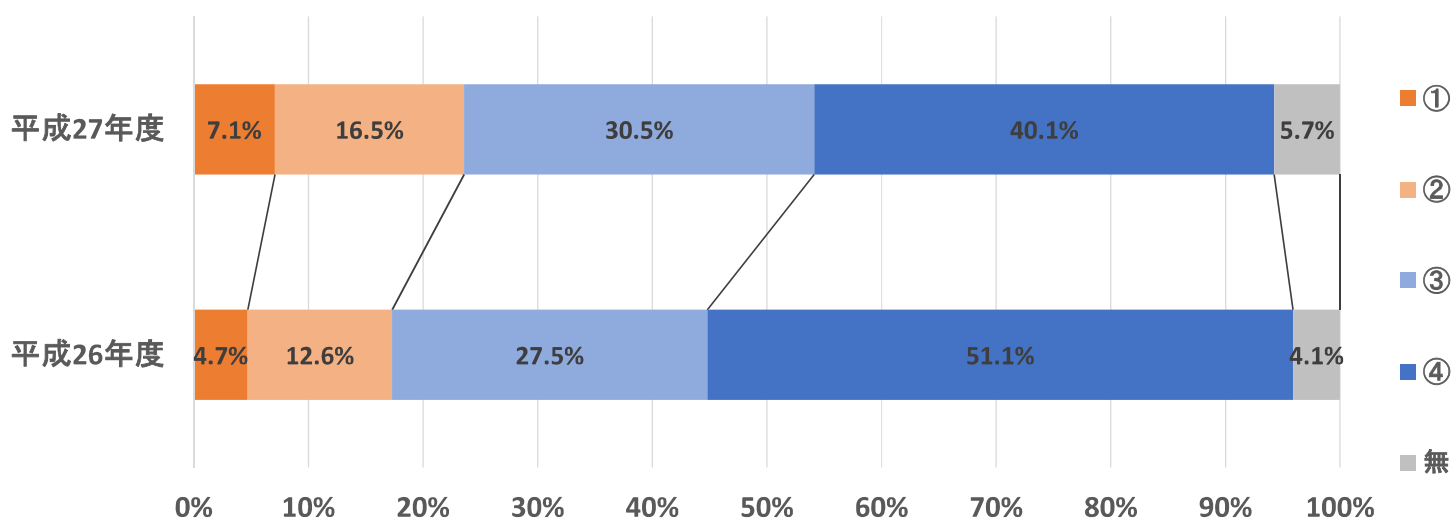
## 2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ②

### 生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」

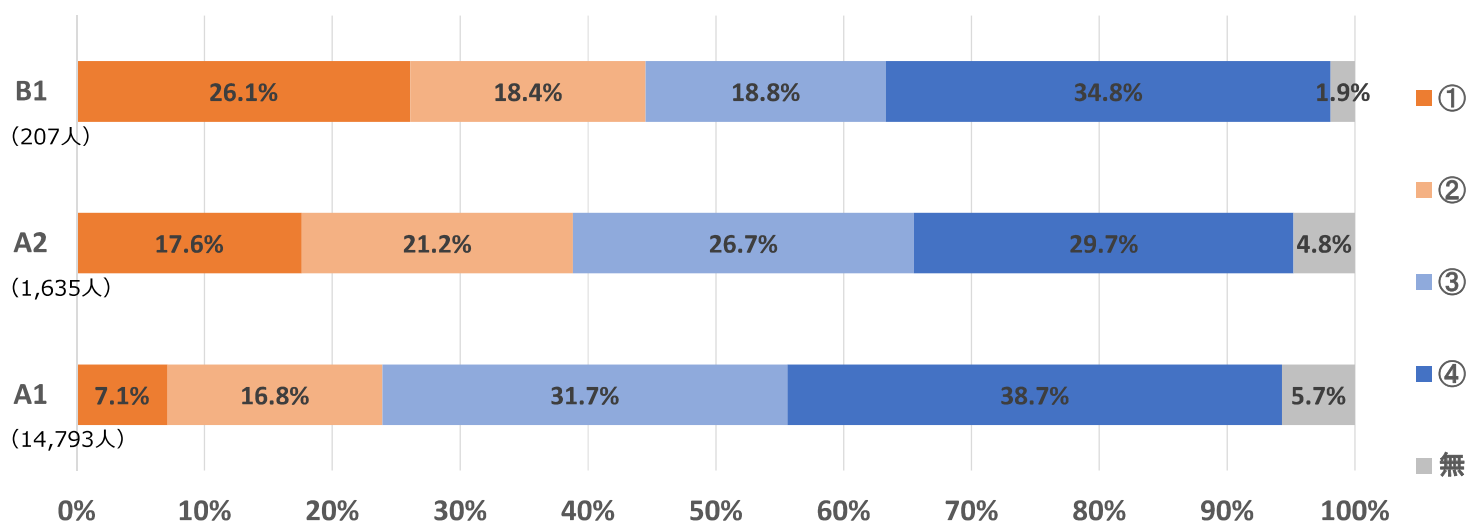
- 英語でディベートやディスカッションをしていたと回答した生徒（選択肢①②合計）は23.6%で、平成26年度より6.3ポイント増加し、改善が見られる。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でディベートやディスカッションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「書くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。

① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



### ■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



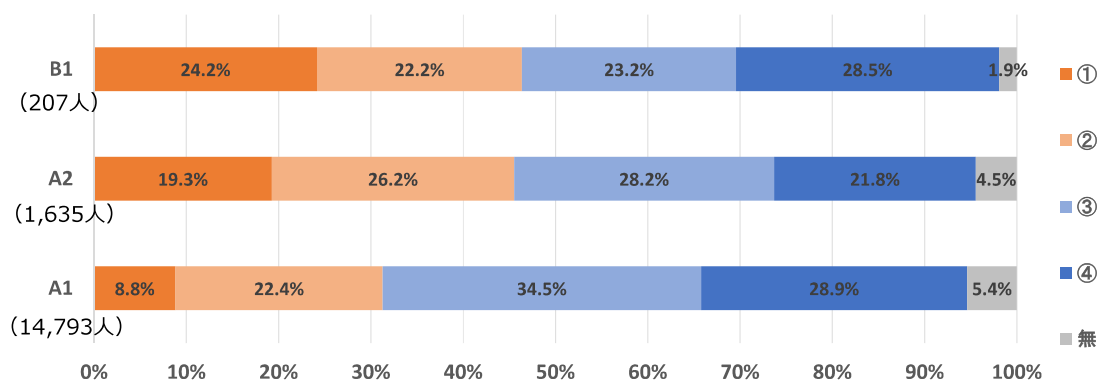
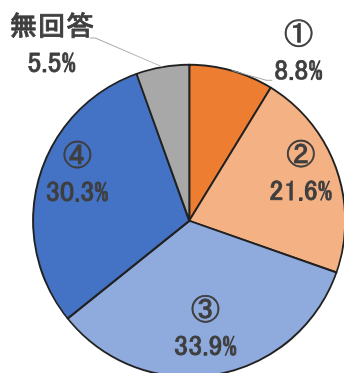
## 2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識③

### 生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」

- 「与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていた」（選択肢①②合計）という生徒の割合は30.4%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていましたか。

① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

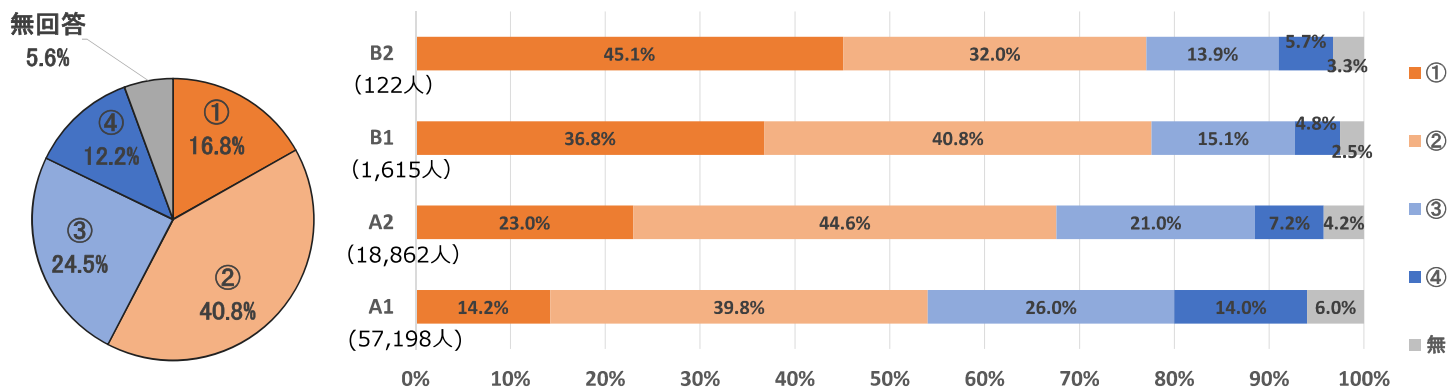
## 2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ④

### 生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「聞くこと」「読むこと」

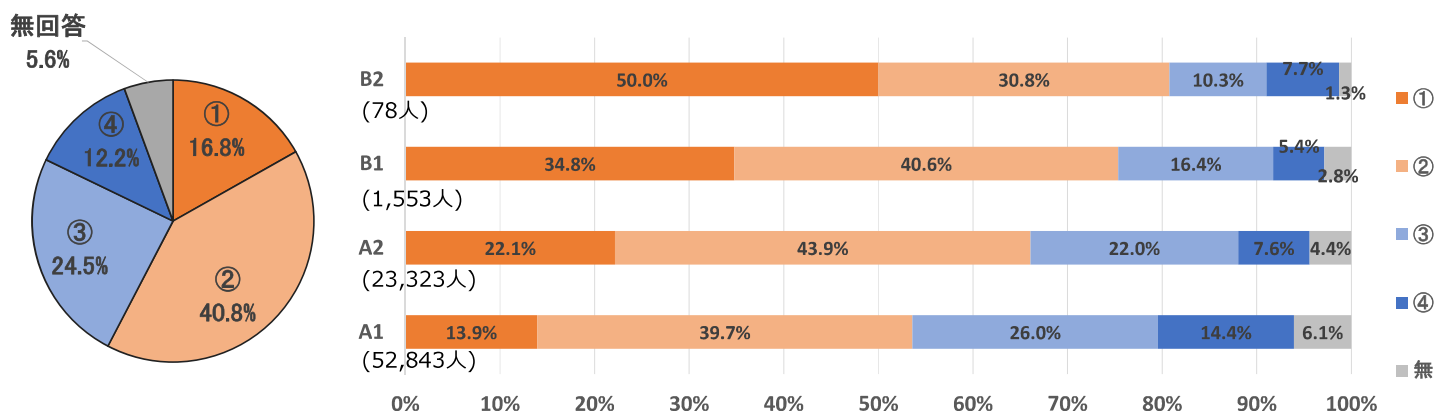
- 英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた生徒（選択肢①②合計）は、57.6%と半数を上回る。
- A2レベル以上では、選択肢①②合計の回答割合が、60%を超える。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。

① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



※「聞くこと」のテスト結果とのクロス



※「読むこと」のテスト結果とのクロス

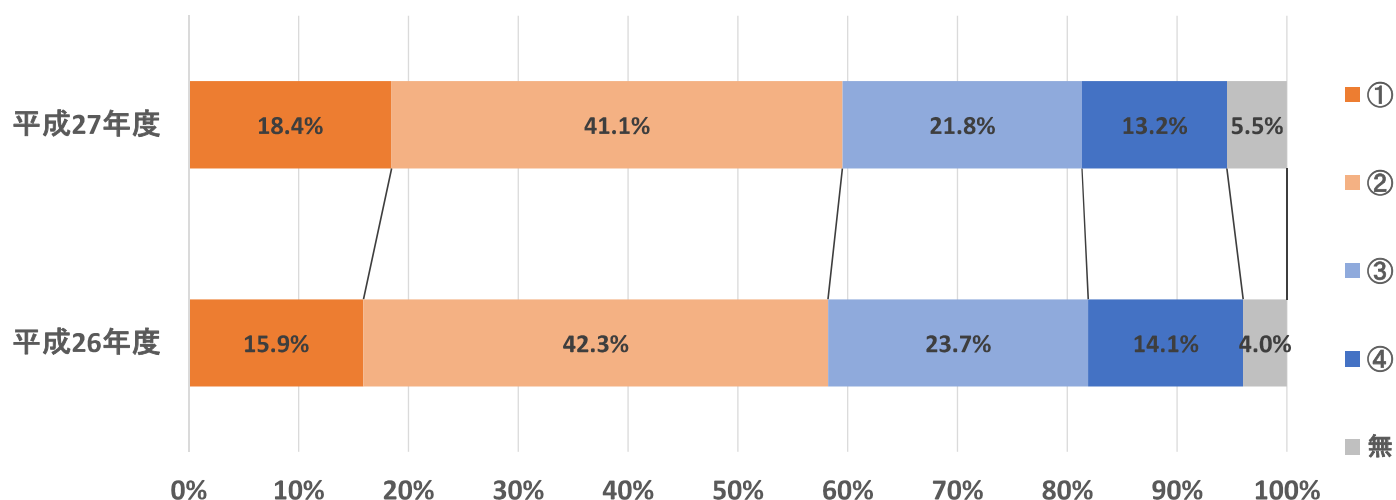
## 2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ⑤

### 生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「聞くこと」

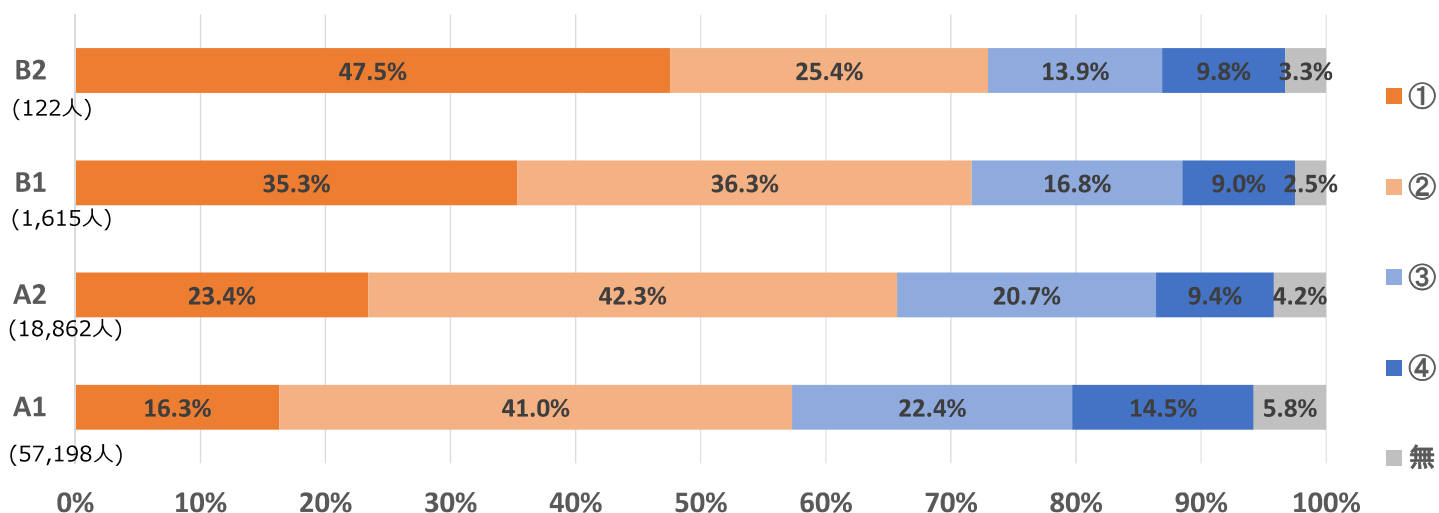
- 英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた生徒（選択肢①②合計）は59.5%で、平成26年度より1.3ポイント増加。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



### ■ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス



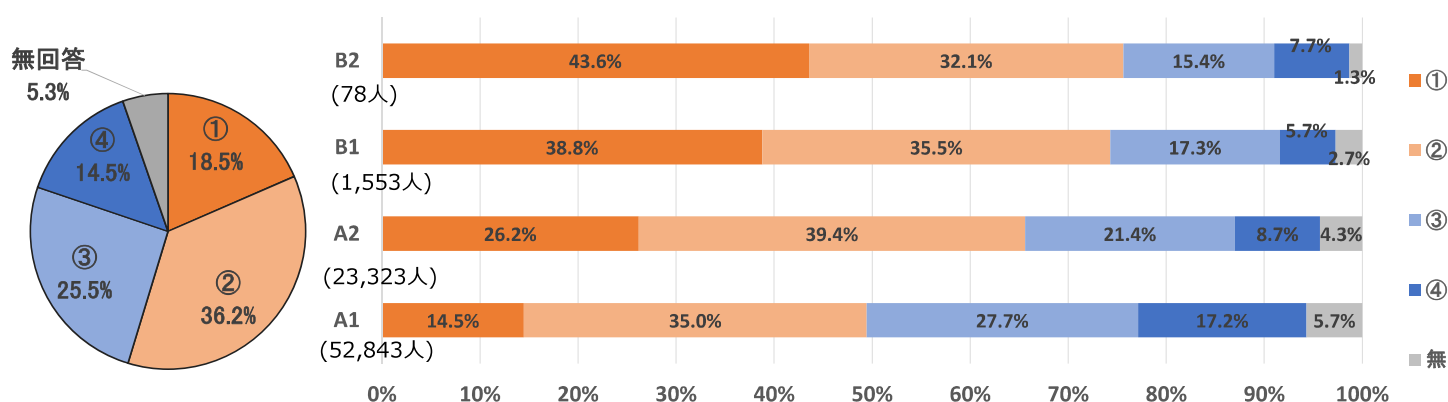
## 2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ⑥

### 生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「読むこと」

- 速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた生徒（選択肢①②合計）は54.7%と半数を上回る。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていたと思いますか。

① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



※ 「読むこと」のテスト結果とのクロス

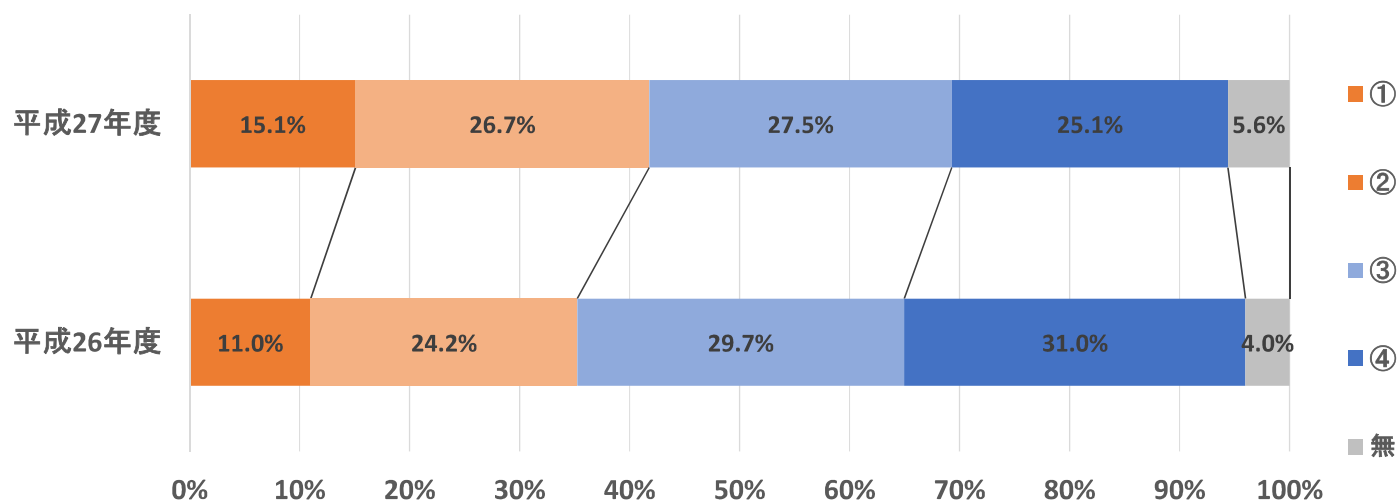
## 2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ⑦

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識 <技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと>

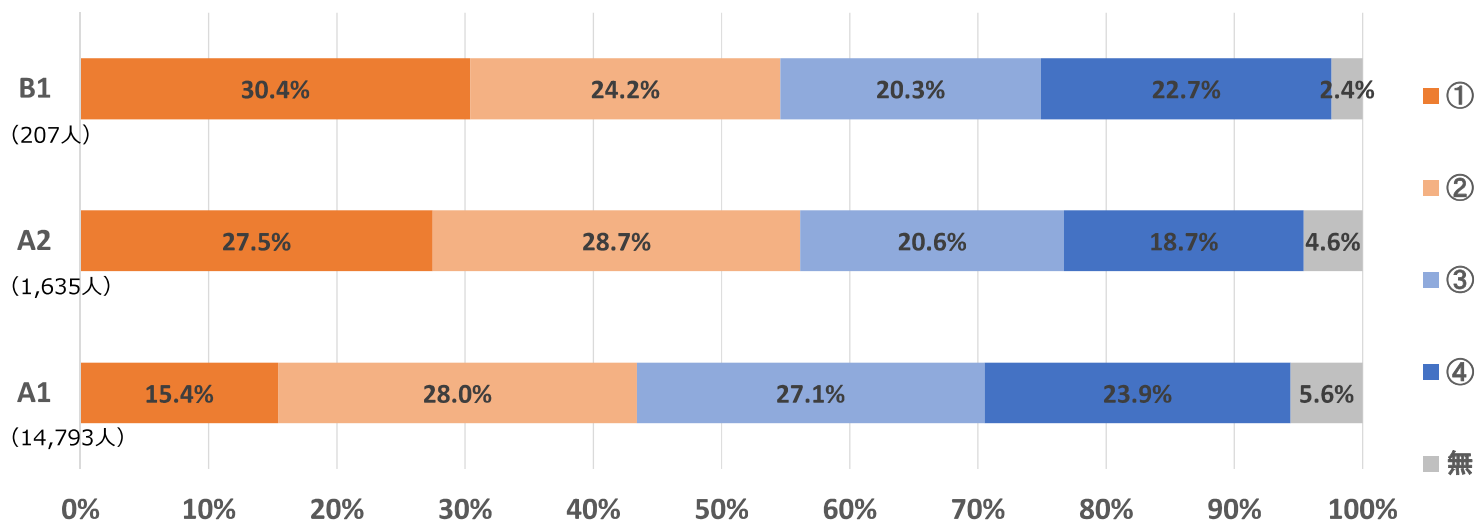
- 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた生徒（選択肢①②）は41.8%で、平成26年度より6.6ポイント増加。
- 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合は、「話すこと」についてA1レベル（43.4%）より、A2レベル以上（A2：56.2%、B1：54.6%）の方が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



### ■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



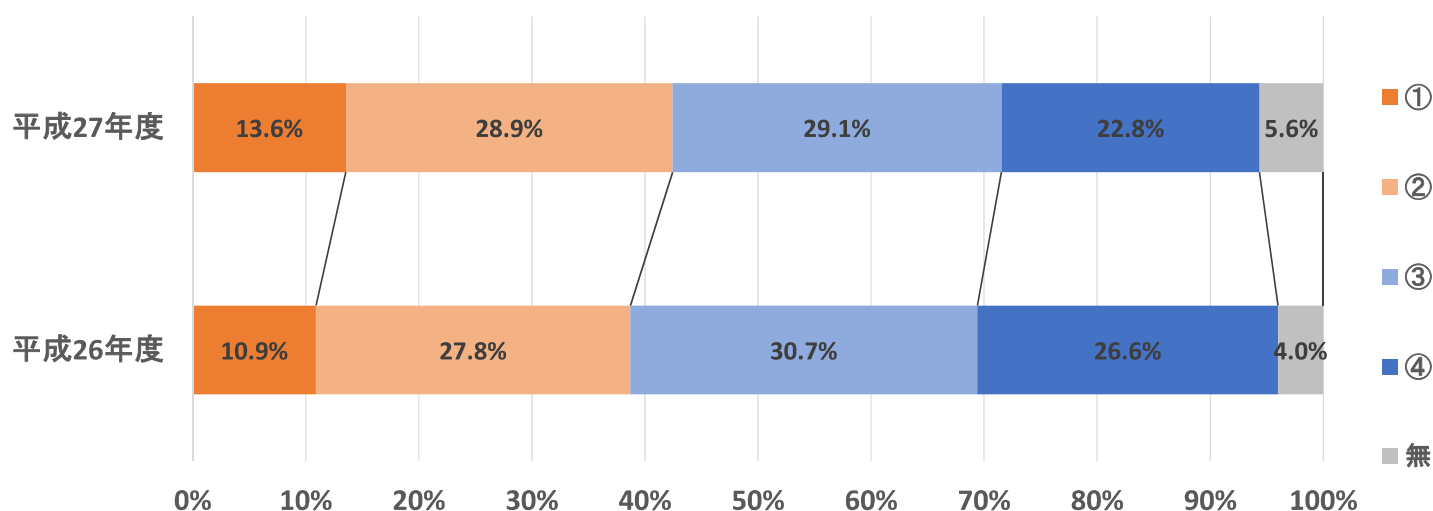
## 2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ⑧

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識 <技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと>

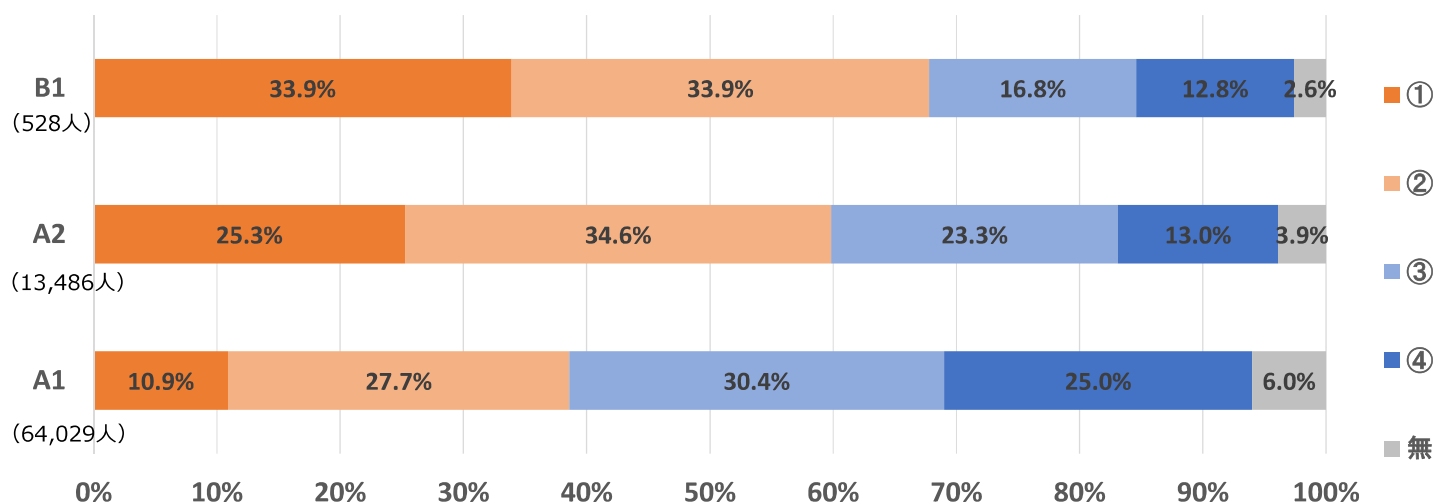
- 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた生徒（選択肢①②合計）は42.5%で、平成26年度より3.8ポイント増加。
- 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

① そう思う    ② どちらかといえば、そう思う    ③ どちらかといえば、そう思わない    ④ そう思わない



### ■ 「書くこと」のテスト結果とのクロス



※ 「書くこと」 B2レベル該当人数1名につき非表示

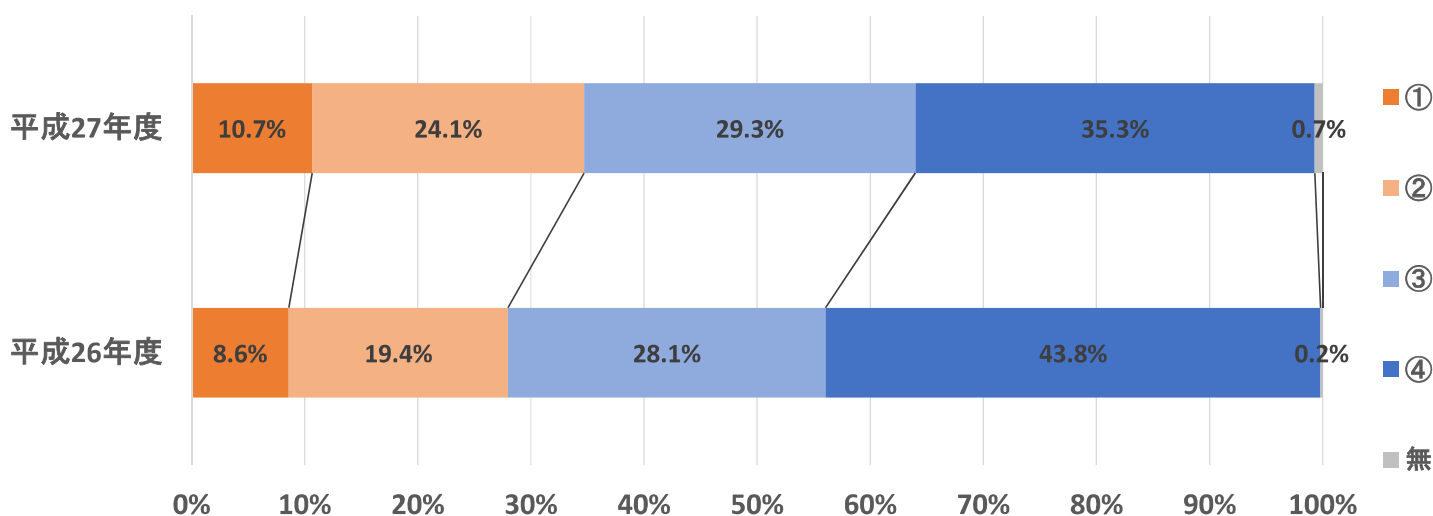
### 3. 教員の授業における言語活動の指導に対する意識 ①

教員の授業における言語活動の指導 <スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション>

- スピーチやプレゼンテーションを行っている教員（選択肢①②合計）は、平成26年度より6.8ポイント増加したものの、依然として34.8%と少ない。
- ディベートやディスカッションを行っている教員（選択肢①②合計）は、平成26年度より3.7ポイント増加したものの、依然として10.6%と非常に少ない。

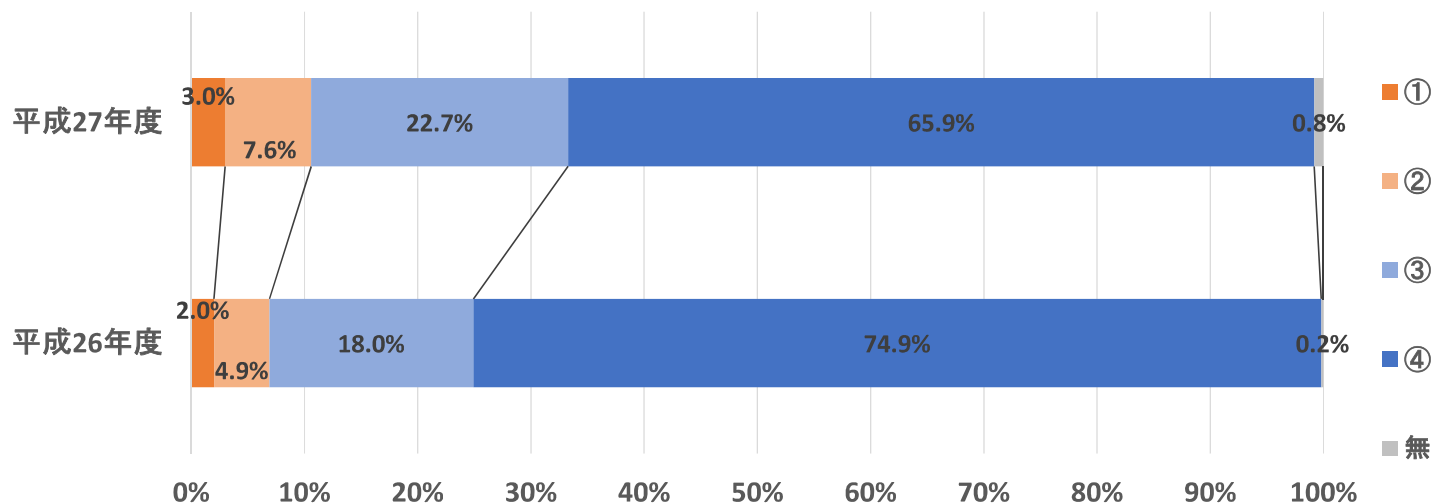
問 スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



問 ディベートやディスカッションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない





### 3. 教員の授業における言語活動の指導に対する意識 ②

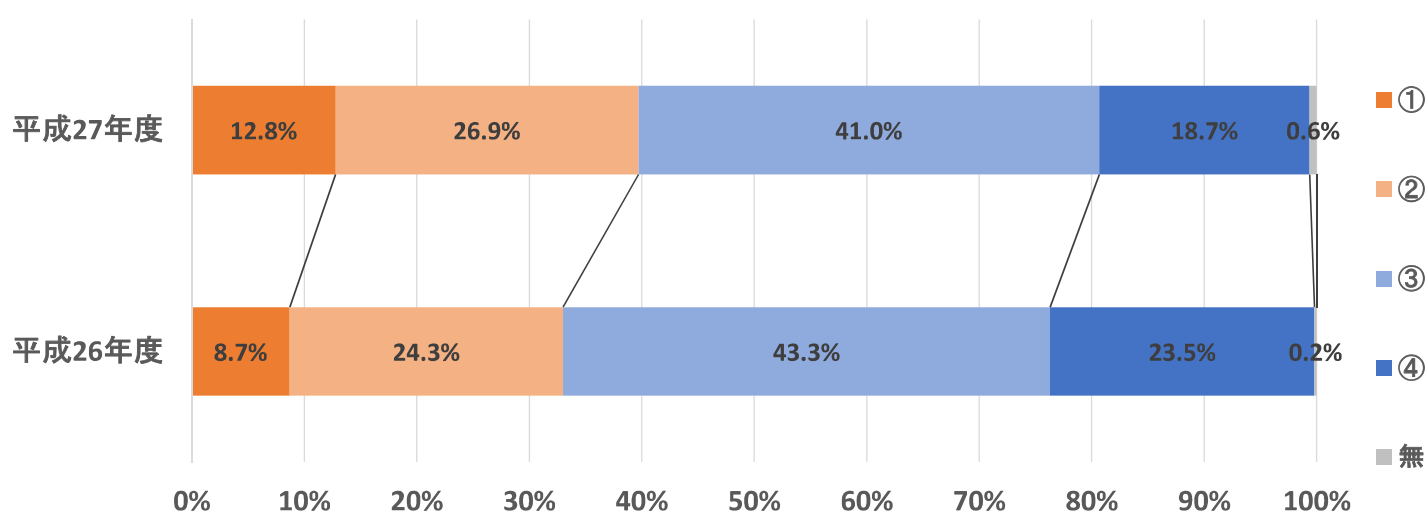
#### 教員の授業における言語活動の指導

<技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動>

- 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合いや意見交換の活動を行っている教員（選択肢①②合計）は39.7%、書く活動を行っている教員（選択肢①②合計）は46.7%で、いずれの活動も平成26年度より増加（意見交換：6.7ポイント増加、書く活動：7ポイント増加）している。

問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

